

嵐翠子著

前　　後　　余　　早　　指　　南

張府書賈東壁堂跋

坪内雄藏氏寄贈

明治三十六年十一月一日

叙

某處へ元來我宗門のれ教りいど。今やもせ寫
ふをこなさる氣も。ちよくへた異のあすき。小便のちよ
を漏し。主君ともに追返の連連を繰り合。其の風
流をうしのふとひもあくして。和教法家の大と。一も
存するこなし。ふと。主君点薬をこの。よつて薬室
おへて然が爲ま。ひくら薬室一室の心要をあすべ
更ふと附を付て。風をうへ。法を改めとす。その上に旁
翁風翁草。お遊つて。まよゆるの日。一老翁の肖像を勢

南
門號卷
239

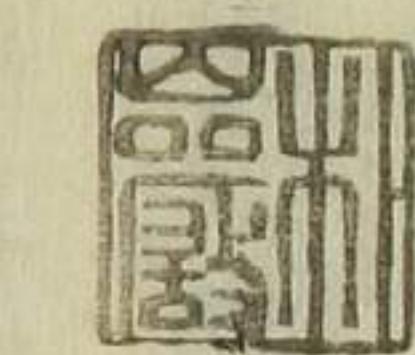
東京市立圖書館
蔵書印

ま。事小あくつて曰。これ故の薬草をもむ様が居士
なり。ゆゑに後庭の脚堂叔師をゆふ。伊豆として机
上ふあり。じてゆて改めす。居士ハ

本朝薬草の中興なり。只く和藥などの伝流がもたらる
を傷て。故紀の志。わきうとの急とも。又一般小あくた
むる。あくよじ。あくじ一時して薬草をもて。あ
まへ。居士の清風がせんと。又可有す。而。わくより
ま及むるを。樂をあひたれど思をせず。居ま宵
縁を見て。忽ちまくしてゆきもあまうに。室をふかみて

志をせし。薬草を捨て。薬草はあくゆ。今已八十
有金を年あり。びとうきうち世の流れにて。風流の
人。薬草をもててもや。もと薬の取扱を恭うもの。水
のひきこ転がる。されど入のやま。不自の薬具。
薬法の主席か。ヨー。叶す。もとや家の歎。家人。薬草
の事をあく。転中。清風後言。薬草仕用集。薬草
又。おもよせ。おこなうれも。向上す。初人の一人
見ふ解。にしこの取小屋の草を捨て。争う居中。薬草
居間の道具を。と。薬草はの主席。十ニをもる

さて。後進ふたりやへとす。未竟方破筋。又毛うひて
梓ふちうをむ。幸子てもまちうぬ。因てこゑを自辨
葉断と影す。亦ハ因流の花名す。居士の邊風す
なり。法華を盡きども。また肖像を梓せよ。ゆよ
と志り千鶴。言和。未だ五。ひ附生。屋場。麻楳始
見。孫室。之。委。葉。紗。好。上。小。安。生。一。て。お。す。



凡例・

- 一 流れの葉齋す。まじふ葉を變とゆまをあづきとも。
初の人の解^レるさふぢかれど。ふれ。葉。葉。葉。叶。叶。叶。叶。
して。こ大ことを。あまうすれとも。内容をかげす。ひじま
ふ。がく。墨。絵。すりて。主。題。の。花。葉。お。え。な。こ。り。く。墨。を
あ。こ。ー。き。ト。吹。毛。す。も。す。め。や。す。き。ふ。そ。の。
一 書中。陸氏と称する。唐の陸羽。高翁と称する。高翁書
之。翁。翁。の。店。さ。ひ。翁。が。翁。は。翁。是。も。夏。株。を。主。翁。と。と。す。
一 空。匂。書。不。文。草。か。下。不。も。ま。吹。墨。之。翁。の。妙。か。く。只。

せんのくがだらうもんとをもひて。こゝの種儀か
らす。それともひのよみふ。かくあがく。種
ふかふかす。あたはるこり。もつりもとを差す
人ハ。まは。まは。まは。まは。まは。まは。
まは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

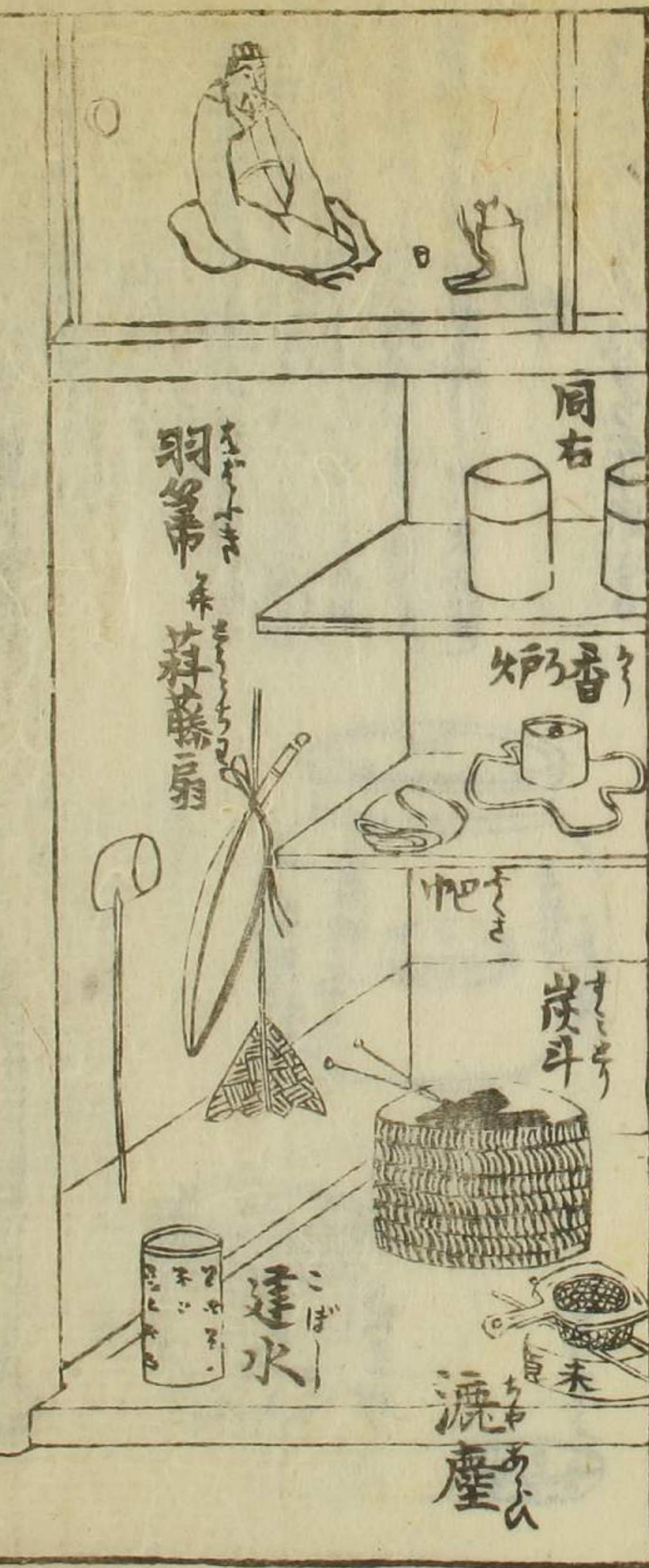
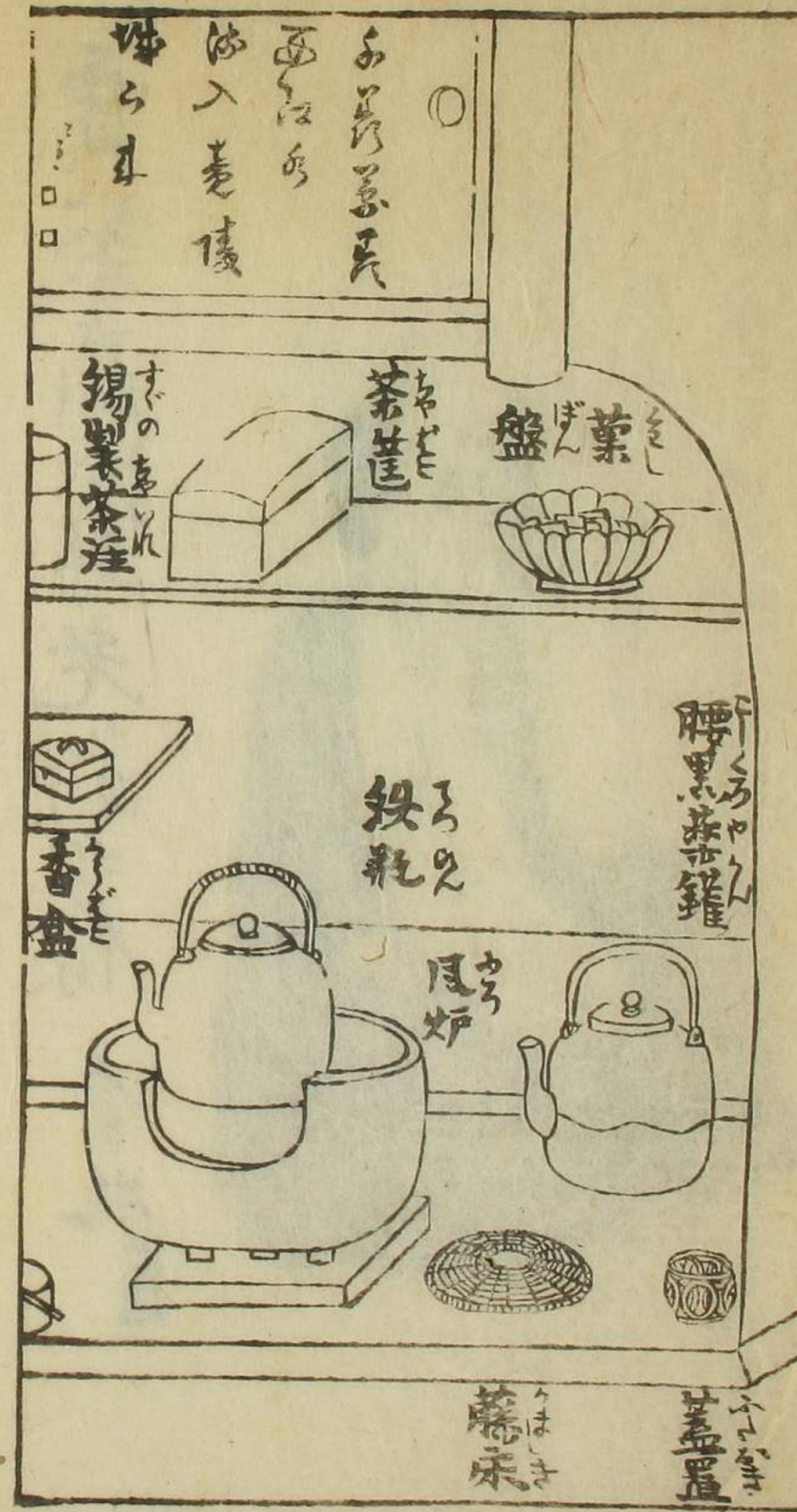
實、茶高遊外老翁之像

李祖



瓦砾小吉茶亭

茶具一室竹移寫



日本國の茶事の法とてある。圓すとてハ茶葉の法を良めり。さうして
うすい茶は良し。おのの茶をもてて用ひてゆふとてなきをす。やんばか入やすき
ことをあまふ。おまえ。ひよろとく茶を好む。おまえびつ。ごくのうまいをす。底
手のうまいのをす。是を好んであるべし。

涼炉并星

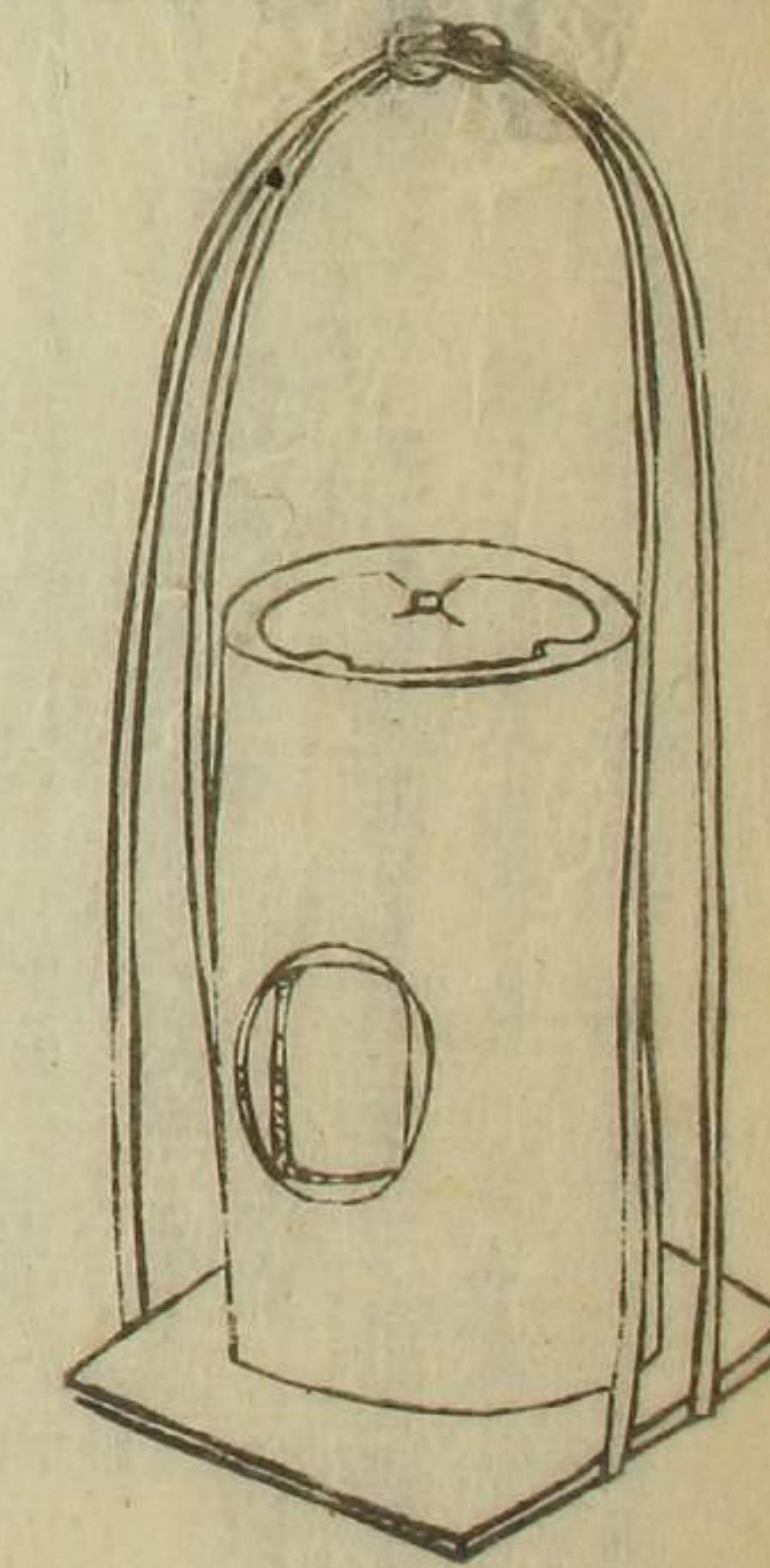
元、星裏かは直あり。とう
とやまちや。今あり。す
ぐまきあらぬも近はつて。ま
さはるの事物。又、いれをうや
製するに形も異も無く。も
はるのふとどす

丸えり

風炉。星裏を動かすと見え
し。形うくのじくかへて。大
きがくと。ざくと。おとと。お
まやうれ。もう。後ドス。かく
用ゆる。おとと。すく。太は

風炉

あむねほの。あむねよれの。

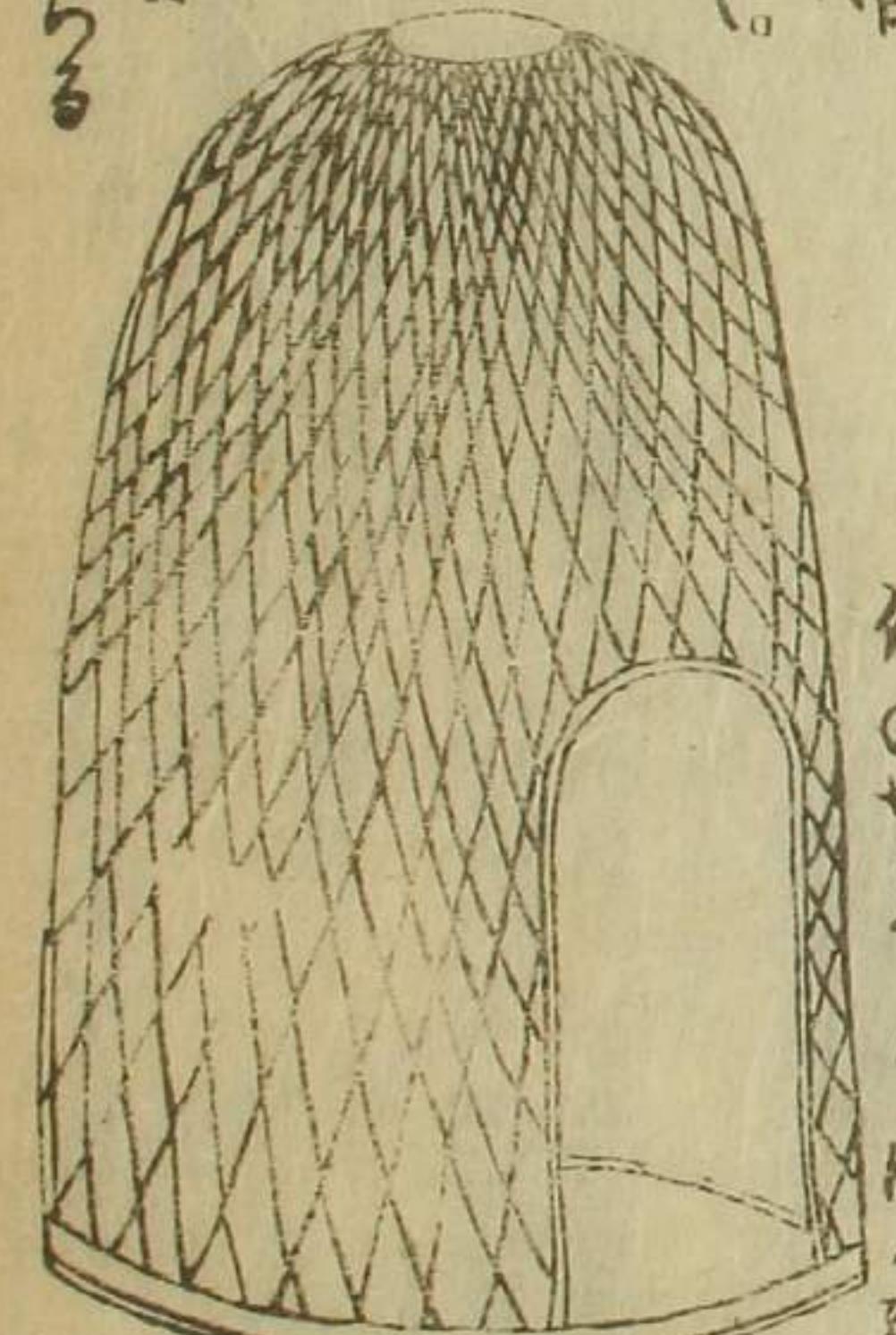


風炉のうちやうて。星爐。れを
ひのそせ。物をやうべと。す
ゆつまう。星爐小利也

炉圓 まことう

まめの。まくらふうて。
星爐。れを。はづく。まことう

炉圓



風炉のうちやうて。星爐。れを
ひのそせ。物をやうべと。す
ゆつまう。星爐小利也

瓢葉菴焙

まめひきごと。用て。
ひやせ。月の
れの。今、星爐
あ。まめひきごと。
ゆきんと。あ。ひき
ひ。ひ。星爐。葉。茶
ほ。じ。を。づ。う。用。の

星爐の風う

之製。へきごのあの方をまう。

度一あか旗をもつて風の

ちやきし

桟蓋

ひぐ

柄杓

ひへや

杓立

ひや

茶筒

一三品ハ無事の時用ゆ
られ、あそびと所ふつゝあらう。
む事葉がお届あらひよし、
病りあとすみやで、被へ入る
やふく一ソルムと身められ、
金く曲すくあるが是高とれと
きくもて身めです。

（）あきずレハ、主事御。被の身めの光
つめや、遺其方の二字を隠して身め



櫻札

漬孟

徑四寸

深一寸余



頃赤

らる。足高ハあり、ぎの曲めのかて、
未傾の二字を鄙り身めう。形も
すこ一異なり

多岐燒　ス　小砂罐

（）前もあへあれど、今あも
用ひゆのハどうなり

櫻札

奴人の形のう形あるへあれど、
（）のう形（）か。足高ハ身の
（）相とふと。もうやうて
つくられ（）ハ、被の大小やう。
（）ちぢれと自由ややくある。被を
もささばせしロのもう。被を
そそぐつまへ



（）今のおゆは形をちかくせぬす

右を主作（）
あらへ一上品
あらえまつた

け三忍。被の

三七。金三。

六二。金三。

やああ一せわら

あります

二

茶鍾

得神詔の事記

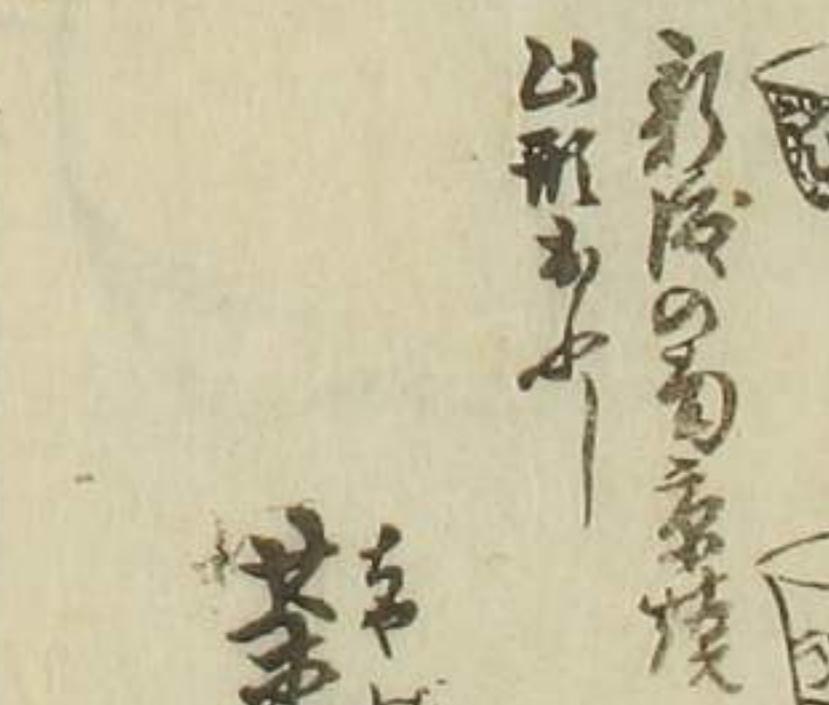
七

形をもつてあれども。づれりちぢみて
周へあらへ。かゝるのたうきとす。とす。
肉の白さは、賣る事ものともれどもと嘗する
ものか。かく。やうじのうらさハ。禁あるを
とあり。

肉は良き。板風店の形を沐テアキテ
うつまわらか一を。まもト沐テアキテ
クシム。得神のニタマをもつてまもんハ。本馬
達也。同アシテヤクシテ御も。御て
おまかせ。是を角の好よまされり。それ
も美あふり。是も形ハ殺人の事に
あふるものなり。

○第ほんハ。かくね。あくゆか
このれのもの。や。まとこのむ。

茶鍾



彰後の馬糞模
形也



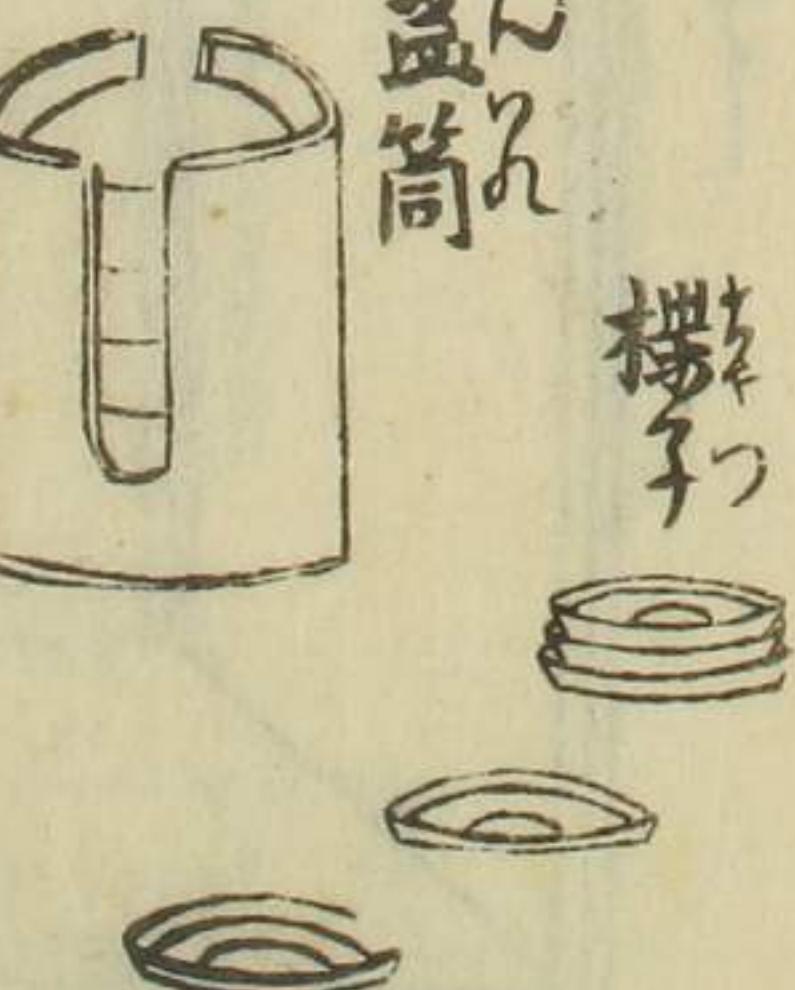
神

彰後馬糞模
形也

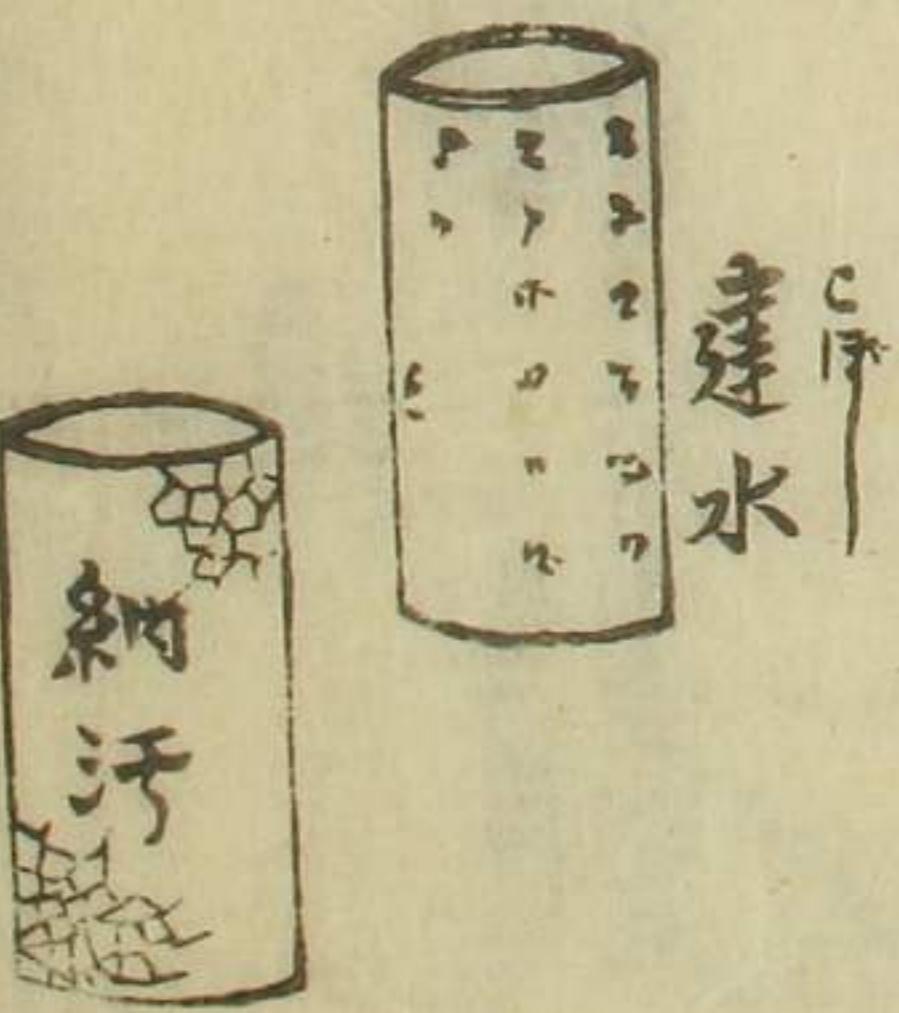
彰後馬糞模
形也

彰後馬糞模
形也

納蓋筒



櫻子



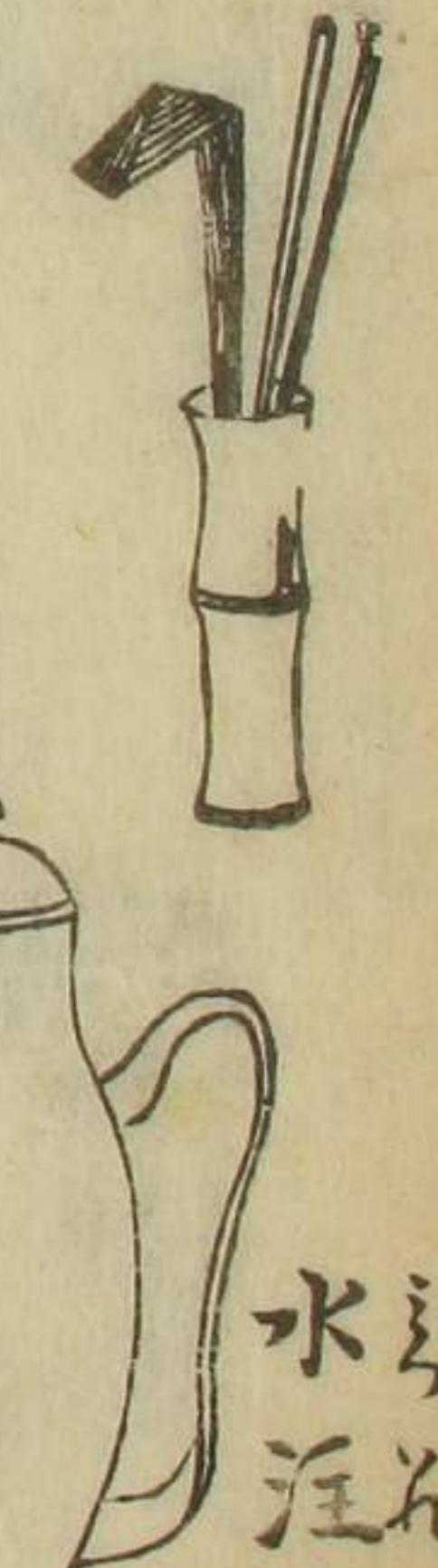
達水



○御事をこぼセ一は。とドナモナ
○竹の簡の事りん入ハ。ま事り。ま
もよ。まの佳境あり。む竹のう
くへをもよび。事りんの大かやう。
つくべー
○ちやんハ。まの事と靈をうそ
せし。おと。事のびは。これかすえを
か。二度の中。事りんすまらざらず
トドー。ハ。もろぬ。板の曲のふ縁
の二をも。路ト。るを。目ゆる。いとく
あり。見なみつ。ふれ。は。う。くへ。き。
雨の。う。元事。ひ。そ。こ。う。た。る。もの。ゆ。
一。片。く。い。う。る。ヨ。ー。き。を。ぬ。も。す。ハ。列
え。の。能。自。も。
は。な。め。。節。た。そ。や。う。も。れ。一。度。す
き。み。が。く。と。ひ。て。こ。ま。を。思。せ。ら。れ。う。

放提

茶匙



水注

茶匙架

げハ瓶の口ふき業の事あつまう
てあ角をすすめとせざり。モキ
モク身をばけのけさくとひき
のくがくと立べ
○ちきくひ。業おどこ。業を
すくひ。シード。モリ
○もくがく。教へよしては門のあ
さく。モヤマムカセ。モヤマ
ヨリ。モヤマムカセ。モヤマ
ハ筋毛の点業ふ業のひく
きく。ロクハジウの腰墨の
や亮か。モカム注カ
つ業具な直ハ。具列。モテ茶經
モカム。水注。モササヒ。モモモササヒ。モカムカ

業すくみハ。扇御玉出す。一匁の
本そつうをす。
けハ業経。本そつうをす
さゆを詰そつじと

あれも。モカム。業

吉ニ石の事のひく。モカムあれも。

妻のと。モサレム。モカムことす。

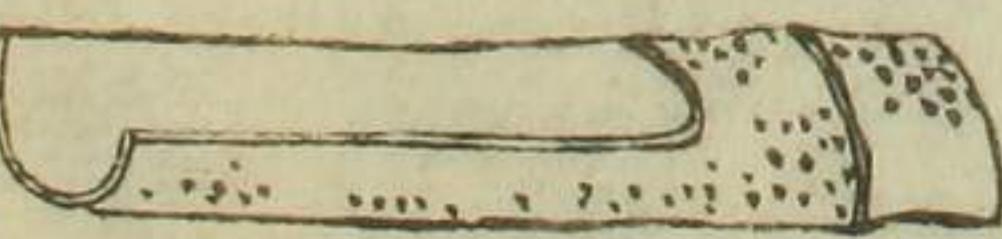
○業きく。モハ竹のうくーと。モカムのと
つくる。是ハ。業のう量を。モカム。モカム
いきゆかく。

○火あきづハ。モサケ。モカム。モカム。
モカム。はモサケ。モサケ。モカム。のぬ
か。モカム。

○炭。モハ陸。モカム。モカム。モカム。
茶經。モカム。モカム。モカム。モカム。モカム。
足。モカム。モカム。モカム。モカム。モカム。



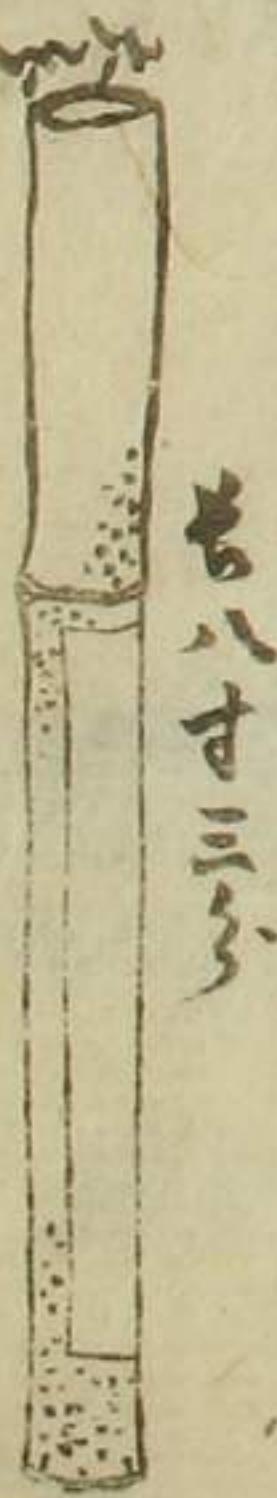
も一尺



もハス三寸



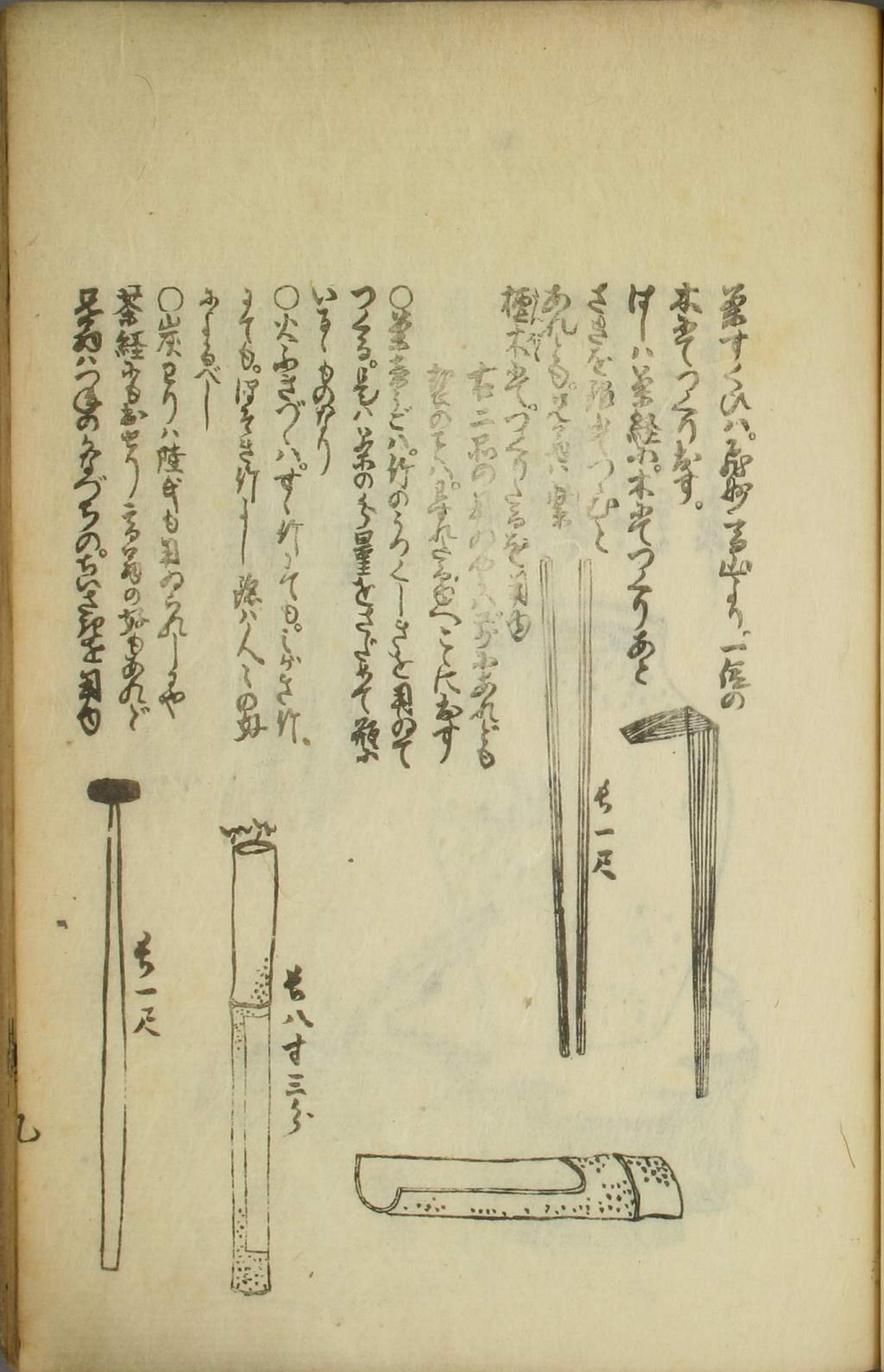
も一尺



も一尺



も一尺



漬水 シナリ 水曹 ミズコ

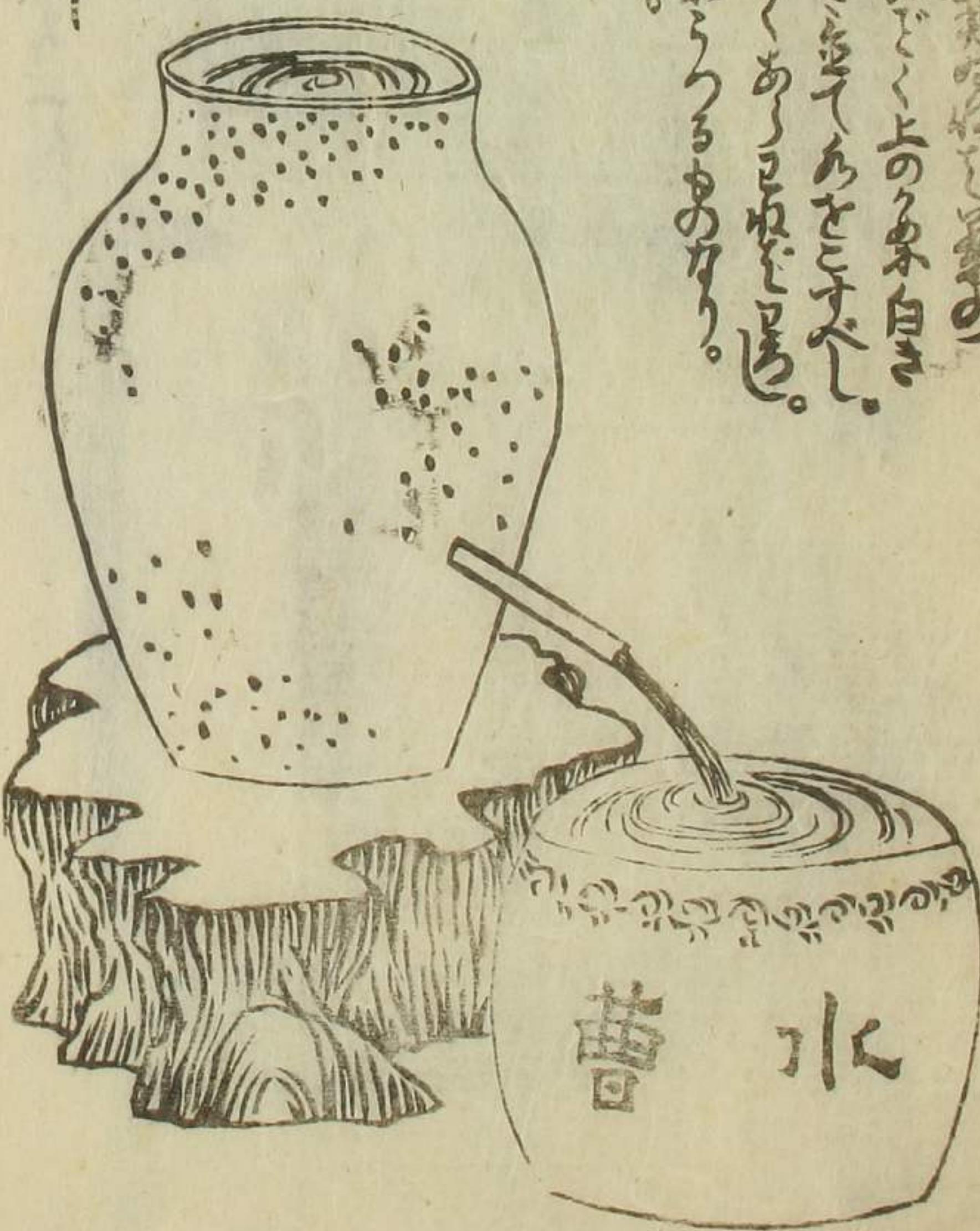
法みハ妙ニ「お及をねくも。ゲーキモ
ヒコトのあらわは。」て言ひねど事の
者俗か害あり。梨園のどく上の名白さ
や石を入。三上小白砂を乞てみをこすべし。
む石がたり。ふくとくあつてごぬをほ。

夏の日ふ。あく良き泉うるわしき。

ソレへよじて漬べ。

いふよかほろきりも。

瓶やへる。ば。ざくく
こすぐ。そ。も。う
こ。ハ。点。ま。ふ。目。ゆ。
め。こ。一。せ。因。ゆ。ご。ゆ
お。全。ま。み。人。ハ。ひ。そ。や
の。そ。そ。を。ぬ。そ。て。こ。そ。う
ま。布。そ。そ。う。て。用。あ。べ



- 関東、陸奥、青森、鳥取と連て、太田代とあわせ、おみえす。
まつすすく。更に、水引のさきを好んで、朝あらぬ、夕暮れす。瓦を
うき足り、草葉を育す。をやうす。
- 喜置、大暑の、夏あらが、やあれ。と窓ハ、日、あらみ。
- ム、をゆ。ちうな、湯をす
○ 藤原、魚沼の、風をまよ。鶴羽小まきを、あらむ。
- あらむ。ひも。なり。
- 信濃、岐阜と、おひが、おもむと、あらむ。
- あらむ。か。山蔓を、づりくる。

○山灰引ハ陸良の糸を経ハ鳥府とひてすばあんどさみがそれより

まきりす。今、そぞれお前ちひさきをね、用ゆる糸糸見合せてこれを
うる見る者ハ占業小用ひーをかげたりす

○蓋置 火著ハ糸糸あめかねともあれ。見る者ハ占業小用

ひーをかげたりすねが當す

○藤床ハ占業のらの用かまひー。かまひーをもよもよてうるもの
あり。形やつとも小なり

○提籃ハねが業ひとじひて、糸糸をもてあそぶ人。ひごふよ
よけりて、もよてやくするがまよ。羽藤竹。竹。藤蔓かてづりくる

三思あり。ゆか。こうう。さじき。あらん。まつ。まよ。ごくぬしき。
あつ。だが。大根。山芋。も入をひり。今。わち。をふせ。る。處。け。す。も。
ぶ。ふ。鳴。を。あ。す。ね。と。す。と。か。は。ま。ま。ま。ま。ま。ま。あ。と。れ。も。こ。そ。
あ。さ。す。ほ。の。お。み。店。を。ど。ぐ。鍾。う。て。居。ま。じ。へ。し。む。ま。あ。ハ。は。は。は。
を。せ。て。さ。ま。の。あ。れ。も。有。も。る。セ。ー。な。是。ハ。一。ふ。を。え。と。す。も。け。づ。き。を。以
て。ふ。と。や。と。ハ。ま。の。た。の。件。を。う。後。進。固。の。も。を。ま。せ。れ。を。む。ひ。玉
「う」と。身。御。通。者。嵐。翠。平。尾。隱。那。古。耶。廣。あ。ぬ。の。と。重。桜。樹

村。の。ふ。も。と。寺。



葉を拂ひの事

街頭道者 嵐翠平著

葉を拂ひ。と。葉。あ。な。の。づ。き。と。真。を。名。づ。ひ。て。入。温。と。行
く。ち。城。と。す。ト。も。ま。の。れ。ぬ。や。ふ。よ。く。口。と。一。か。を。く。べ。
葉。を。無。ハ。あ。う。泥。が。下。れ。る。葉。を。づ。り。入。ま。ふ。と。ち。遠。里。あ。な
ど。き。あ。れ。こ。か。よ。る。ハ。ま。よ。く。す。り。ま。を。し。ふ。ま。る。葉。あ。へ。あ。や。づ。う.
え。れ。わ。葉。を。い。ま。は。や。ぞ。裏。陳。と。も。に。ゆ。づ。て。と。も。う。す。け。
く。あ。と。じ。き。と。葉。の。か。を。拂。そ。何。あ。も。け。り。蟲。を。い。う。う。し。そ

はくじて。用ひまつて。むかへりきとせハ。わが御み那
トコナベ焼。大お葉がもー。ねづく。度ミドおちうく。モハ
ふかこーの巻を用ひまづ。もく。敵人のゆゑに。おれど
湯の川。あふ。まよまよのゆきと。墨面モクモクを一對イツペア。す。落葉。
あそび葉を入メれり

水を呑ウツト。落葉

葉を喫する。ハ。オ一匁を空スカシす。一。何シテ。落葉モクモクす。
あらわげも。氣味ともによく。陸シマ山サン。山サン。井モリ。井モリ。下シタ。水ミズを飲ウツ。落葉をも。一。葉を呑ウツて

あそぶ。あのとたなれ。皆ミツバチを。あ。れ。も。山サンを。あ。大ヒロ
お。山サンを。あ。山サンを。井モリ。井モリ。を。喫ウツす。度ミドおちうく。
キ。度ミドおちうく。度ミドおちうく。度ミドおちうく。度ミドおちうく。
度ミドおちうく。度ミドおちうく。度ミドおちうく。度ミドおちうく。
度ミドおちうく。度ミドおちうく。度ミドおちうく。度ミドおちうく。
度ミドおちうく。度ミドおちうく。度ミドおちうく。度ミドおちうく。
度ミドおちうく。度ミドおちうく。度ミドおちうく。度ミドおちうく。

落葉を呑ウツト。落葉

一。落葉を呑ウツ。る。瓶ボトル。ヤハ。水ミズを。呑ウツ。水ミズを。呑ウツ。水ミズを。呑ウツ。

唐をやうゆるものなり。スー^トつ^トぬ絶ハ^タ一^ハ返^スゆを
京です。二^ハ月のゆ^ウて。茶を^シま^ス。

湯^ウか^クの事

す^トて茶を^シま^スする。ひふ。あく^シきみを^シめへ。ス^トハ
ひも^トく^シて。茶を^シま^ス。ゆ^ウのことく^シ。とべあ
ぐち^シて。茶を^シま^スなり。スー^ト高^タめゆ^ウと。茶^シま^スて
れど。茶葉^シは氣味^ウすく^シうて。もあ^トや^スす。陸氏^ニ拂^ト
ゆ^ウと。初ゆ^ウの拂^トか。ちひき^シ魚の目^のや^スる。ゆ^ウと^シて
微^トす。中^ヒは黒^シか茶^シの^シく^シま^スて。隣^シを^シま^スて

ト^シ事^シよ^シ事^シ。モ^トハ^シ事^シと^シあ^リて。シ^トト^シ事^シ
するを。騰波^ト鼓浪^ト。よ^シれすな^シち茶^シを^シま^ス。時^モ
それ^シるを^シ。ちう^シあ^リや^シ拂^ト入^ス。と^シ事^シす^トと^シ事^シ
も^トす^トす^ト。

○許然明^ハ茶^シ疏^フ蟹眼^シ之後^モ水有^シ微濤^モ是爲當時^モよ^シ
ハ^シ陸氏^ノト^シ事^シ。

○顧元慶^ハ茶^シ譜^ハ右^モ振^シ驟^モの三音^モを^シま^ス。多^シ其^シ
事^シを^シま^スと^シよ^シ。詰^シの^シ詰^シの^シ。詰^シの^シ。詰^シの^シ。又^シ
も^トす^トす^トす^ト。後^モ事^シを^シま^ス。

○ヤ蘇軾の十六湯品も。因ハ至る同命たり。ゆふどりえ
ち。上品の事も。下品の事も。がまうす。ナリ。とつり

○書生を取ふべし。薬をもゆき。面をばく。先物を
うしのふとあふ。づれみえでざたらぬ。換あつて置なし。
お現言。仕角集。おくヨーイもぐり

○足氣いづく。湯のうんをうづへて糸を投る。ハ。我まつる
中。呻吟同时。う。よひまくゆ。歎の郎をあくとく。
ももやういを口て。よひまくゆ。たやまの草。郎の牛。うり。
やがて。歌へとむすめ。うさ。呻吟同时。うづへり。とづき

公のう。げふわらひなう。東家おむか入の人ふ。かゆた
とよもよもきもつへまわす。あつて。ゆきつも。ある
へきゆう)なり

糸を糸して熱味をうづふす。
現言。小東坡の句をりて。いこく。糸をすすり。人ふ。應
對する。ゆがむものさて。鳥の脚も見る所。法をも。一にて。ハ
もう。うすといふ。ゆふ。いつれも。人ふゆく。ゆく。ま
ふふやゆ。よゆ。もぶ。しや。うす。ゆく。ま
又曰。糸をいふ。おゆ。糸を。まく。うづへて。ぬけすと

をすと。急か事を投げて、直ぐ上の上をひいて藤麻
へもとし。板めえもんのものや。瓶の中の茶あさも。ふ
づくたる時が。のこがんやり。難^うすぐれに茶の氣が
すき。あーさーさーさー

あよこの奴人の意味をうごと。右のまわらふら
只見^みハ茶を取つれ。思^{おも}せこ^こそたのどりもあらう。
さりやう。あゆりゆきにちて。茶をいそとそば。さくと
吹^{ふき}きは。手^て法^{ほう}を用ひず。瓶を口^{くち}にあてて茶を
く。不^ふまと一^{いつ}うきて、火^ひかちよとけ。直^{ただ}ちよとて難^うせ

らるるゆのゆ。難^う一^{いつ}ぐへ上^うかよ^よく。瓶の中の茶
のまわらふらふら

○茶のう量^{うりょう}ハ。め一合^{いっごう}か茶^茶。二^にト^トゆき^{ゆき}て^てある
も。只見^みハ。五^ごトワ^トと^と。ひより。もんも茶のふかよ^より。て^て

ふくふくすへし

○淹^{なま}茶のう量^{うりょう}ハ。湯^湯をあふ^より。さきものなれど。今^{いま}がし
ま^まて。ま^まく

○淹^{なま}茶とするか。ばかり瓶^{びん}を瓶^{びん}の上^うにすえ。茶を中^{なか}へ入れ。板
かより煙筋^{えんすい}をくくみて。もあくゆみの匂^{にお}いにまく

ふ籠の中へ湯を汲ひて身をすり。うぬーうぐんはとお向
○右は立膳の法なり。足並みをこの法と用ひよる。
うの手もだへ茶の法よりあれど。うかまうすには
○左は信樂の巣塔はづらしていよいよもとがす。
あゆみよよと野毛を立する附は巣注くびより巣漏なまく
て。直かいる。そがはしうせぬをもとね茶はす。大
きや。ゆるくとほじる。

ああとほる。

陸氏^う茶經^か漬塵^{くじ}とて。茶をほふ器をも。茶もあ

かうかあり。抹茶^{まつぢゃ}はつまよせらふこと茶をする。有馬
御^ごのちの御^ごと御^ごのれり。はらはら。泡^{あわ}を
もへぬけて汲み。各行のそーそーおこし。おこし。おこし
ら。根^ね緑^緑がにあかり。陸氏の附り。京^きも。すべてを
さかげ立てる。必ずまちは。雅と好む也。キ
すむなり

茶をほふ事

蓮葉^はは達^{たつ}の義^の。ひきうちうらうら中^{なか}で。茶をほふ事。花
の附り。あきらめ。たおもむく。壁^{かべ}のつみを。すむ時^{とき}か。

乞おー直かかあわいれど。在の事せうへりて
雅あり。爲業業あるをのれに益處うじゆ有りて。つゆと
り。重役じゆやくる様の中なかにて漏あきらつゝものもなし。あれども。
品茶要録じんぢゃうろくゆすまよへ。これらのも入雑いりざ
可こなり。あるとぞ。腸こうも大か細ほそて。喉言ののごんごんわざわざりを
えをもつてかよよ。肺氣浮言ふきふりごんをそばんも。あ
のより。茶葉ぢゃようとぬひへ。活氣浮言ふきふりごんをそばんも。あ
まく。それも茶葉ぢゃようの量りょうの下くだり。あ
まく。茶葉ぢゃようを薦すす可こ

附言

○業業不ふりとも肝要かんようとする。わ教法解がくほうげきの事こと
も。儀進因ぎしんいんの法考はかうすま。アシカシアシカシすまへ
○つゆふ業業と見て然らば。モ切純きりじゅんも御す。我
よりむの。重業業生化じゆうじゅうせいこう化か事こと
○茶經ぢゃきょうとあつて。唐の陸鴻漣りくこうりんハ業業と云いふ
人ひと。以よ逸いつを因いんぐるもの。がくかくみがくかくみなり。れども。業業ぢゃようが
かく解わかれて。以よ本ほん業業ぢゃようの大典だいてん也や。茶經詳說ぢゃきょうじょうせつ
あり。モく。實物じつじゆのへ。アリ。すまく。も。あく。

又やのがくと。まもよよひへきひめなり。お今の
せふをまを。やてあふ人。陸羽とあまごうのせとん
り。えのちいぬか。大さるあやまつ。事経と石井連
も。葉白の事もあれ。敵事もせられ。もだり。もく解
事もだれ。せむるもあ。もれ。葉のこもの。いのゆか
も。陸氏の田身とえもれ。豆の事もか。葉経ともうて
もくわし

○丘のまの中興。利林居士もれ。け葉もあて。葉事
うち根が底もあ。じれのまくつかまく。千、日もれ。

清風道院。もも花入松の人が。まく
和経の事もれ。それすべと。まくかや底をまく。
○清風道院。浪花の事。脇のもの。ひよすふ。
まくふ葉事もが。ゆくのまくから。まくも文の向よもするの
ね。めいの人へ。すもふも多。御もよひて。まく。
○浪花の大枝流者。のめ。まく。葉事は。葉集がある
人。まく。清風事話。やまと。がたのなれど。やつるや否。
これ又ふもあ。めのれど。まく。
丸も底の葉事。やねり。まく。わの人の解

ゲヒシ。ヒのモテウナレ。モチスカル。モス。只右の二篇也。
あふてのヒハラベリ。

○もろくの葉。まよ。舶來の葉。あるをいそとも。ば葉小み
はやぬと。下界の葉。葉。いやすひとも。上葉。葉。あひ。葉
さー。だれ。ねても。貯。あも。と。タ一先。と。氣。味。あ。か。と
ゆ。て。葉。さく。す。あ。た。と。す。又。あ。も。通。う。ち。これ。西。に。め。な。ど。
まれ。ふ。ほ。そ。も。と。あ。せ。と。皆。あ。あ。れ。そ。葉。を。き。て。う。そ。り。ば。斧
秋葉。の。名。あ。る。え。す。ま。く。日。暮。の。う。き。ひ。が。那。あ。う。そ。モ。用。ゆ。
や。ま。く。す。

○は。す。あ。ふ。葉。と。豐。す。る。法。セ。モ。葉。大。か。む。じ。く
一。年。や。二。年。も。そ。う。ん。セ。モ。葉。大。か。む。じ。く。即。て。費。用。の。多く。し。て。
着。あ。き。る。わ。り。され。とも。一。時。の。り。く。と。少。少。古
今。の。葉。ま。と。や。ズ。バ。毎。き。葉。す。る。人。ハ。ま。く。思。う。因。て。葉。す

ヘ

○地。重。ハ。あ。づ。ト。仰。ま。上。葉。と。を。す。ふ。ち。た。れ。と。我。ま。く。ハ。因。
の。相。ひ。え。ー。葉。を。豊。す。ー。あ。す。シ。外。あ。あ。葉。あ。み。上。葉。葉。す
ぐ。ま。く。る。か。れ。の。ヒー

○知。高。郡。大。ち。の。や。あ。す。あ。ひ。葉。ち。じ。み。これ。は。別。越。津。葉。の

法にて。む佳忍なり

○かせ定光寺の糸ハ、名所巻園の製同様にて。又元
往忍なり。じあふキ上糸の糸と號す。氣味糸が異なる事
を遠し。あづもにあら枝流なる事。有也。

○齊の白林寺。毎年庵様糸を製セラ。そ其意を以てハ、山
山をもす。あもすとがまをも

右四糸ハ、我坐圓妙の法也。よきをものなり。仰る人ハ
仰る人達ありて。製法を用ひ之

○本朝にて、萬度と號する者有也。第一とす。山藏の事

守店の里あり。あれも、糸糸糸をもてハ、むづり邊の信
乐を。天、下質一とめはーあそり。そ賜物も守店はー。どう
にての上糸をもす。建後、心がも。かくすと現言ふ。とぞれ
う

○信、坐の上糸也。もと御のはよてもあれも糸の終ハ、手代。
糸の義。ゆの。正義ある事ト。今ハ終も。そ上方より
アケヅシテ。形容と稱するもあリ。又糸の君よからて。来る
事もあリ。そ品目ハ、やどくも。豈限もあリハ。むづかことなるは
○殺人にて。信もと當てられ。さばけんと信出のトをあん

やあふのまよハ。彼仙の人も亦人のも。まよひ行先の上にすん
といふ。たあまよひの下だんとも

○つむかえする葉。うらうへ在櫻はあつてハ後赤と申路の
葉より鉛すハ一等も上の葉。あれもあざれらこそ申もの
よきものなり

○唐うち。圓茅とて。茅とのことあり

わがうち。葉をまとて。今うやす多きむう。さりとてまみ
風流ふあそべ。老人のあはなり。國まことに瑣言の社用集も
くこーさん。あるてまきを

○もとわの浦。急焼。えろ。萬尺もせ。やきあすふもとる
一もの。達にち町三支を。七七傳とほどの多ふす。梅林
金三も。今それをうへて焼もすの浦のうち。因あ助。
たを届おむじ上作。うき。うき。あをとくす。めをゆるめのよう。おま葉
又め作。たを届。あをとくす。めをゆるめのよう。おま葉
主の陶器と。まよひひごくもの。地。松風店も

○和方器を。あはせをハ。手す。手。助。右。ゆふの
人の。陶器表を。行。まよひ。うつや。が。通。まよひ。よほして。
今ハ。風流。えがお。別。屋。あ。む。と。む。と。及。と。年。よ。の。急焼の

八。翁の心事。かくもすとつても。おみせ承あるか。かくもみる所あり。
○本府桑原の花見を。あきのよめ。かくも。篠山。本町
十丁目ほの差。同。七丁目取て。今うそ。これと並ぶ
右の枝井ハ。又翁の花見仕合を。乍入の人へ。あふ。
うふもあするものや。

尾張名古屋書肆	白人一首之部
東壁堂製本畧目録記	艶玉百人
画譜繪手本之部	金氏画譜
北齋漫畫	英勇画譜
北溪漫畫	浮世画譜
北雲漫畫	英泉画譜
琉林漫畫	一筆画譜
蕙齋兼画	今様百人
文鳳兼画	福善齋画譜
神事行燈	吾妻百人
富嶽百景	淳世画手本
北齋画譜	錦葉百人
	初學画手本
	同寸珍本
三	武勇魁圖會
狂画苑	麗玉百人
同寸珍本	一

和書之部

新古今集抄 五

將棋之部

本居宣長翁像	一	詞於うい合鏡	二	將棋道標	一
地名字音轉用例	一	八日行日記	一	同指南車	一
源氏物語手枕	一	花のえぐり美	一	同名家友	一
天祖都城辨	一	ぬをみの鏡	二	同金襍	一
御遷幸長哥	一	萬我の比禮	一	同階梯	二
歷朝紹詞解	六	尾張迺家芭	九	同鷺孤	一
古今集遠鏡	六	江戸職人哥合	二	同自在	二
美濃乃家芭	八	冠位通考	一	碁經之部	
古事記傳	置	消息案文	一	碁經夾範	二
同 目錄	三	熱田縁起	一	碁經夾筌	二
神代正語	四	伊勢物語	一	碁立手談	一
三代調類題	六	誹書之部			
同	目錄	二	佛諦崔芝集	一	
後撰集新抄	五	同 五七集	五	先友詩抄	二
後撰集新抄	五	枇杷園發句集	二	寒林刪餘	一
同 別記	一	同	後編	二	晞髮偶詠
同		同	七部集	十	日下新詠
三代調類題	六	同	七部集	十	時人詠
同類題發句集	二	同	七部集	十	金山稿

醫書之部

手本物之部

援山千字文

傷寒論持解	五	大橋遺帖	一	同書通案文	一
同正文	一	同改年帖	一	同書札法帖	一
醫聖堂雜話	一	同池凍帖	一	同四季文集	一
醫家千字文	一	同今川帖	一	同嵯峨名所	一
妙藥手引草	一	同書用集	一	同江戸川用文	一
本朝水種方	一	同當用集	一	同四季假名文	一
延壽養生談	一	同書札集	一	同年中帖	一
養生要論	一	同新消息	一	同清風帖	一
内外要方	土	同初學手本	一	同乞巧帖	二
醫事古言	一	同假名手本	一	同詩哥帖	一
方書摘要	五	同風月往來	一	同私用集	一
醫家日記	一	同江戸名所	一	御家書札文海	一
蘭藥鏡原	三	長松貴札帖	一	同當時用文章	一
的治療方	一	長雄書札集	一	同永樂用文章	一
經穴秘授	一	荒木今川狀	一	同自在用文章	一
藥品考	一	同赤壁賦	一	同永代用文章	一
提耳談	四	行成朗詠	二	婦女用文章吾妻錦	一
溫疫論	一	空洞書翰	一	同上紙	一
尊圓觀玉今集序	一	二節詩哥擷英	一		

佛書之部

字引節用之部

袋入赤本之部

圓光大師御傳畧贊	二	滿字節用錦字選	一	松綠高砂話	一
菩薩戒童蒙談抄	一	早字節用集	一	天竺德瓶譚	一
釈迦應化畧諺解	一	同 小本	一	今昔小町譚	一
永平道元行狀圖	二	同 真字附	一	昔語丹前風呂	一
觀音施無畏圖	一	同 大全	一	先讀三國小女郎	一
現生護念之圖	一	手紙早引集	一	朝茶湯一寸口切	一
宗門畧列祖傳	四			却說浮世之助話	一
圓戒琢磨訣	一	天文中星風雨考	一	戀女房讐討双六	一
稽古御和讚	一	天文候鑑	一	一對男時花哥川	一
白隱施行哥	一	晴雨管規	一	同 八一後編	一
金斯幾	一	晴雨考	一		
		年中曆講譯	一		
西國三十三所觀音圖		濱の貞砂石川草紙	二		
同 順禮哥		其寫繪戲佛	二		
同 善緣起	二	永樂古狀揃	一		
閑居忘草	二	軒草娘庭訓	二		
唐士談語	一	初學古狀揃	一		
十善戒法語	一	中臣祓正義	一		
御經之部		教訓伊呂波哥	一		
心經和訓鈔	一	小説断金集	一		
高王觀音經	一	道咸緣起	一		
因位和贊	一	永樂大難書	一		
菩提和贊	一	古錢價錄	一		
因果經	一	煎茶早指南	一		
		木石居煎茶訣	二		
人相早合点	一				

女今川貞操鑑 一 萬宝年代記 一 通俗西湖佳話 四

繪本女今川 一 年代調法記 一

同庭訓往来 三

燒物出所 一

同咲分勇者 二 松月堂百瓶 三

同曾我物語 二

秉穗錄 四

同大江山 一 立花當用集 一

彼此合符 二

同義經記 一

大日本國郡全圖 二

同忠臣蔵 一 諸禮大學 一

美濃國全圖 一

同失的心 一 四季獻立集 一

三河國全圖 一

同名古屋於妃 一 尾州名古屋本町通七丁目

永樂屋東四郎藏板 一

同公時一代記 一

發行

江戸日本橋通一丁目

同 日本橋通二丁目

同 淺草茅町二丁目

同 日本橋通二丁目

同 芝神明前

同 芝神明前

同 大坂心齋橋通北久太郎町

同 心齋橋通安土町

同 心齋橋通博勞町

同 心齋橋通安堂寺町

京都鞍屋町通姉小路七丁目

尾州名古屋本町通七丁目

書肆

須原屋茂兵衛
須原屋新兵衛
須原屋伊八
山城屋佐兵衛
和田屋嘉七
和泉屋金右衛門
河内屋喜兵衛
河内屋和兵衛
秋田屋太右衛門
俵屋清兵衛
永樂屋東四郎

4年3月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

山西 七月

大陽

大陽

大陽

平陽

平陽

平陽

平陽

平陽

平陽

平陽平定縣縣長公署於此
平陽縣縣長公署於此
平陽縣縣長公署於此
平陽縣縣長公署於此
平陽縣縣長公署於此
平陽縣縣長公署於此
平陽縣縣長公署於此

